



岩手、宮城で震度6強

3人死亡、10人不明

M7.2 道路崩れ孤立集落も

十四日午前八時四十三分ごろ、東北地方で強い地震があり、岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度6強を記録した。その後

も最大震度5弱の余震が続いた。岩手、福島両県で計三人が死亡し、宮城県で十人が行方不明とな

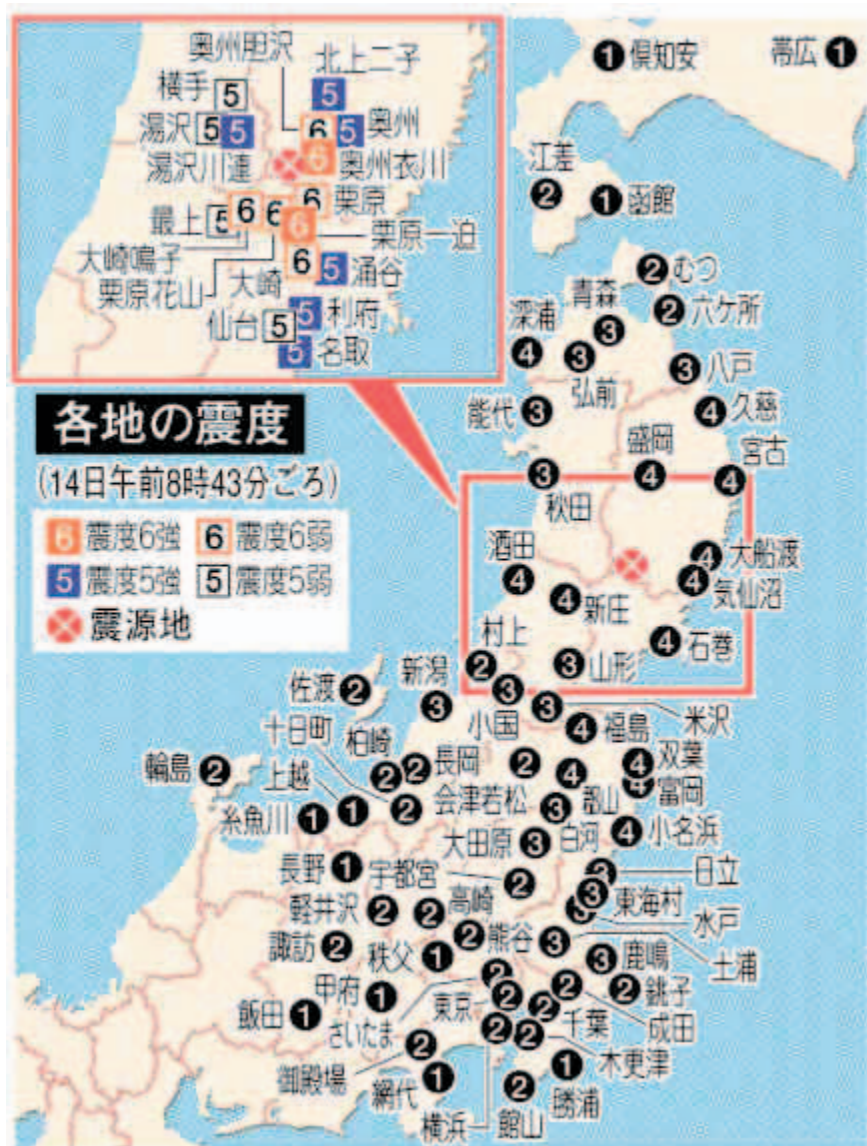
った。この三県と山形、秋田両県で少なくとも百人以上が重軽傷を負ったほか、各地で道路崩落や土砂崩れがあり、孤立する集落も相次いだ。

気象庁によると、震源地は岩手県内陸南部で、震源の深さは約八キロ。地震の規模はマグニチュード(M)7.2と推定される。気象庁はこの日の地震を「岩手・宮城内陸地震」と命名した。

警察庁や各県警、各地の消防によると、死亡したのは、奥州市の胆沢ダムで作業中、落石に遭った千葉正彦さん(48)、地震直後に家から飛び出し、トラックにはねられた岩手県一関市の千葉友三さん(60)、海岸で釣りをしていて、土砂崩れに巻き込まれた福島県いわき市の会社員、石井道隆さん(55)。



地震により陥没、崩落した道路。14日午前11時52分、宮城県栗原市で共同通信社へリから



栗原市の駒の湯温泉の旅館が倒壊、経営者の家族と宿泊客ら計七人が建物の下敷きになったとみられ、行方が分からないまま。栗原市の工事現場

では、作業員三人が土砂崩れに巻き込まれ、行方が分からなくなった。それぞれ県警などが捜索している。

奥州市では、約二十人が乗ったバスが路外に押し出されたが、全員救助された。

道路崩壊などで孤立したのは、岩手県一関市の須川温泉で約百人など。また岩手、宮城両県で一時計約二万九千戸が停電し、断水もあった。東京電力や東北電力によると、福島第一、第二原発、女川原発は異常なく、正常運転を続けた。

国土交通省によると、東北、山形、秋田新幹線は運転見合わせ。在来線も東北地方の広い範囲でストップし、仙台市地下鉄も全線で見合わせた。